

もっと笑顔で、暮らせる明日へ。

aito

2

Feb 2019
No.287

How to enjoy your winter?

大好きな花に囲まれるアトリエを開きたい！

ENJOY LIFE

エンジョイライフ

苔を使用し、西洋の庭園風に仕上げたお気に入りの作品です。



一昨年に気軽な気持ちで始めたプリザーブドフラワーのアレンジメント。とても面白くすぐに虜になり、週1回程度、山形市にいる講師の方へ習いに行き、プリザーブドフラワー芸術協会の認定講師の資格を取りました。趣味が高じて、現在は鶴岡市の花屋に勤務しています。

将来、自宅の一角にアトリエを創りたいと構想中で、作品を飾って華やかにし、そこでレッスンしたいです。地域の人々が、気軽にお茶を飲みに来られるような、そんな憩いの場にできたらいいなと夢は膨らみます。現在は生花のアレンジメントにも興味があり、自宅の畑や地域の人たちが庭で育てた花をアレンジ出来たら面白いだろうと考えています。大好きなお花に囲まれる毎日がとても幸せです。

朝日支所管内 小野寺 未佳さん(32)

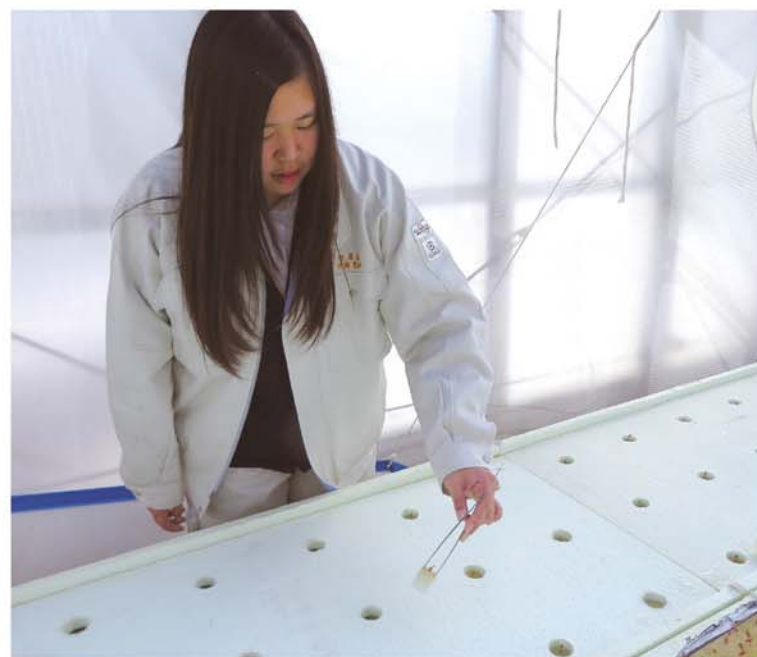


SHONOSEI TRY

庄農生トライ

農業高校で得たものを地域のために

園芸科学科3年 伊藤 里紗さん 酒田市



私の家は農家で幼い頃から農業が身近にありました。そのことについてもっと深く学びたいと思い、庄内農業高等学校に入学しました。

一年生の時に、初めて枝豆と白菜の栽培をしました。この時、農業がこんなにも大変で、野菜を栽培するのにたくさんの手間をかけなければならないことを知り驚きました。二年生からは、施設園芸の授業で、水耕栽培による無農薬の葉物野菜をつくりました。土を使わないで栽培するところや、消毒せずにとっても見栄えのよい綺麗な野菜ができることに感激しました。幼い頃は、農業にあまり良いイメージがなかった私ですが、授業で農業に触れるにつれて楽しさを実感するようになりました。

農業高校の醍醐味は、自分たちで作った野菜を自分の手で販売することです。地域の方やお客様と触れ合う楽しさ、買っていただいた時の喜びを感じられます。卒業後は商品を提供する職種に就くことが決まりました。高校で学んだことを生かし、地域に貢献できる人材になれるよう精一杯頑張っていきたいと思います。

農業は経験と挑戦。「こだわり」を大事に

FAMILY FARM

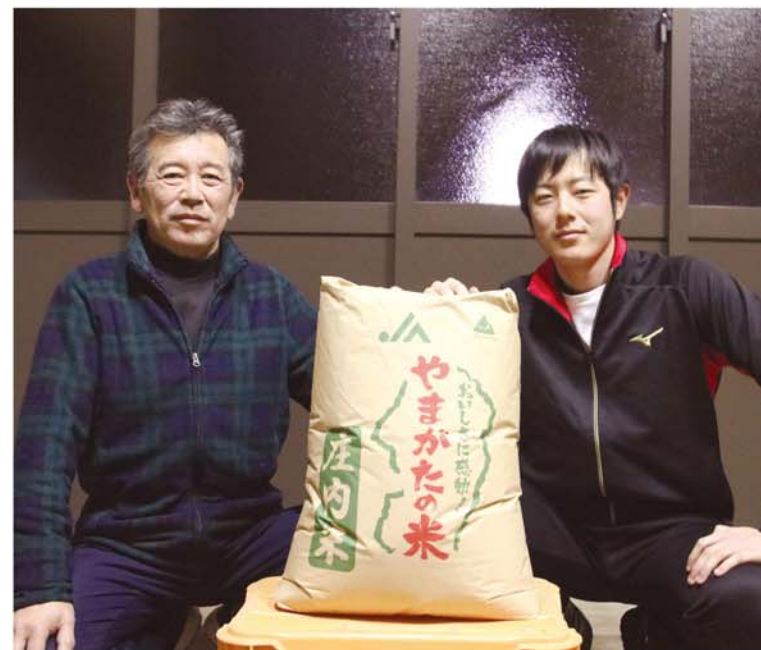
ファミリーファーム



今年から冬仕事として二人で柿の剪定班にお世話になっています。

櫛引支所管内

菅原 一夫さん(60)・陸さん(21)



(一夫さん) 農家を継いで約40年。主に稲作とメロン、庄内柿の栽培を行っています。2018年の春に、県立農林大学校を卒業した息子が就農し、気持ちも体も楽になりました。私は「農業は経験が大事」と思っているので、技術面をしっかりと伝え、不安なことがあれば私や農業組織、友人、先輩に相談するよう話しています。息子も吸収しようと頑張ってくれるので、応援しています。将来は経営を任せ、サポート役として見守りたいです。

(陸さん) 幼い頃、家族と自家栽培した野菜の味が格別だったという経験から、農家を継ぎたいと考えていました。親子二人三脚の農業として、父が何事も経験させてくれるのが勉強になっています。教えてもらうことだけでなく自分で挑戦したいと、トマトを新規に作付けし、冬作業として有機物を利用した「ぼかし肥料作り」を始めました。父が頑張ってきた農業を引き継ぐのはもちろん、自分のこだわりの部分はとことんこだわる、そんな農家になりたいです。



3人仲良く肩を組んでピース！

AITO KIDS

あいとキッズ

立川支所管内 阿部 来翔さん(9)・楓冴さん(8)・茜愛ちゃん(4)

来翔さんは、マイペースだけど家の手伝いや妹の面倒を見るしっかり者。学校では図工の授業が好きなんだそうです。

みんなに優しい楓冴さん。お兄ちゃんと一緒にタブレットで遊んだり、スキーを楽しんでいます。

おてんばで元気いっぱい茜愛ちゃん。3人で遊ぶことも好きですが、お人形で遊ぶことが一番楽しいようです。

「これからも仲良く、支え合いながら大きくなってほしい」とご家族からでした。



農業者担い手育成・確保へ連携

鶴岡市とJA、大学など6者・滞在型研修で就農後押し

農業の担い手などの人材育成・確保に向け、JA庄内たがわは、鶴岡市と山形大学農学部、東北芸術工科大学、JA鶴岡、ヤマガタデザイン(株)と産学官6者で協力・連携に関する協定を結びました。市などによると、農業人材の育成に特化した産学官の協定は同市では初めてとなります。

同市では、基幹的農業従事者が年間140名ずつ減少している一方、最近の5年間では、新規就農者が年間平均24名程度にとどまっており、農業をリタイヤされる方々を補完できる就農者の数に程遠い状況にあります。

また、同市の地域外や農外からの新規参入する就農者の割合は、県全体と比べてかなり低いという特徴も浮き彫りになっています。

こうしたことから6者は、親元就農など、地域内の新規就農をより一層増やしていくとともに、地域農業者を含めた栽培技術や経営力の向上、研修施設の整備、研修生の募集・PR、研修後の就農支援、地域の農業者との交流などについて、協力・連携を図っていくもので、農業振興を通じて、定住人口の増加にも繋げていきます。当面の具体的な取り組みとしては、経営ノウハウを学ぶ座学と生産技術を学ぶ農業実践研修を組み合わせた研修システム

を構築し、そのための人材育成研修拠点施設を整備していくというものです。

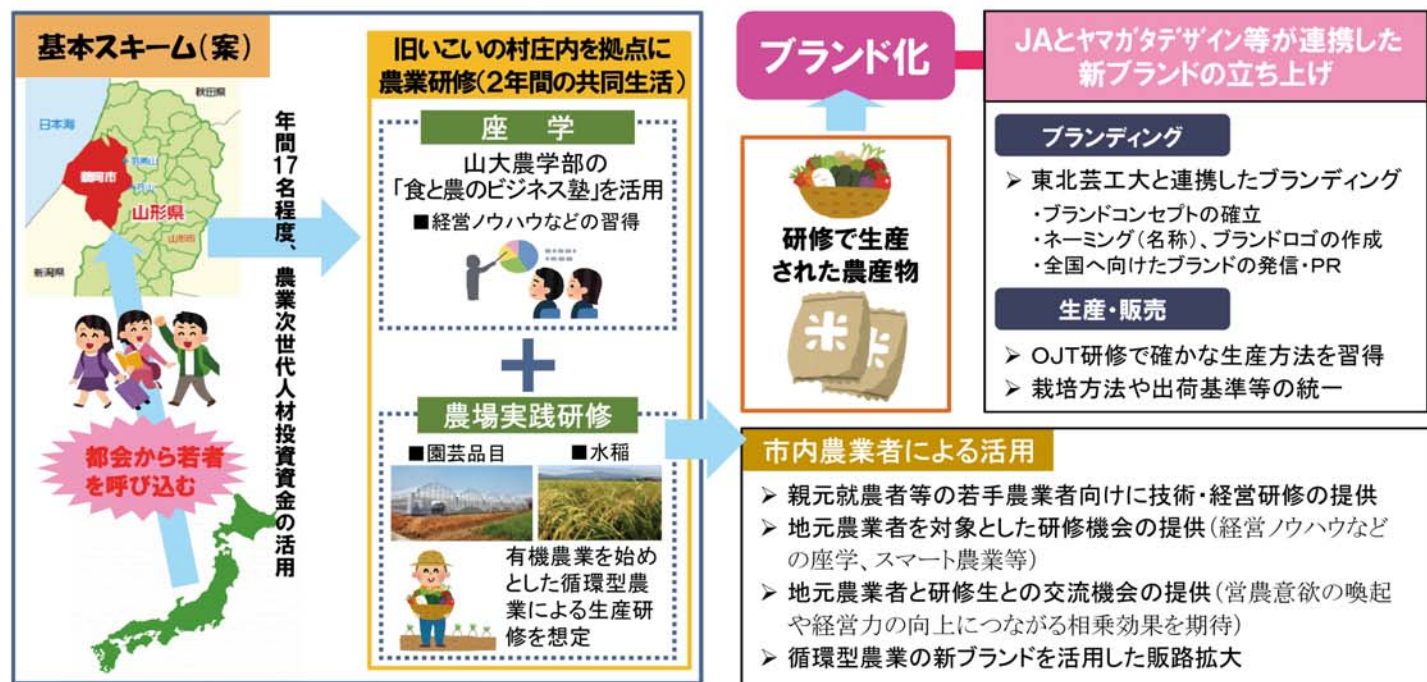
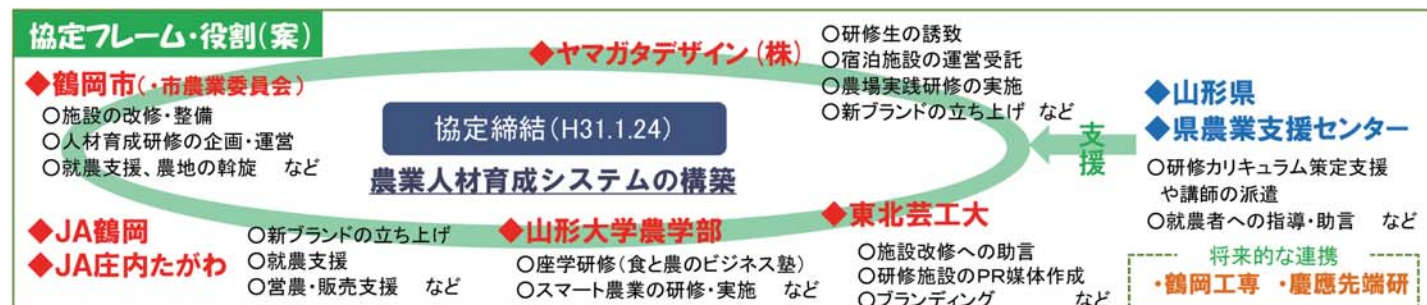
場所は、旧「いこいの村庄内」を想定しており、魅力ある施設と研修プログラムを提供することで、農業に興味や志向のある若者を首都圏等から呼び込むとともに、地域の新規就農者や地元農業者も経営や技術を学べる場、農業者同士の交流の場としても活かせるような施設を目指していきたいと考えています。

1月24日、鶴岡市役所で行われた協定締結式では、皆川治市長と山形大学農学部の林田光祐学部長、東北芸術工科大学の中山ダイスケ学長、JA鶴岡の佐藤茂一組合長、JA庄内たがわの黒井徳夫組合長、ヤマガタデザイン(株)の山中大介社長が協定書に調印しました。

皆川市長は「ユネスコ(国連教育科学文化機関)の食文化創造都市にも認定された鶴岡市を支える、農業の人材育成・確保が課題」と述べ、当JAの黒井組合長は「スタートラインに立った。農産物販売目標の達成には若い力が必要。地域の合意が不可欠であり、この取り組みが、食の都庄内の一端となればうれしい」と期待を込めました。大変難しい課題の解決に向け、総力を挙げて取り組むという、これまでにない充実した体制が整えられました。



協定書に調印した6者の代表ら(当JA黒井組合長左)



お問い合わせは各支所共済窓口まで

温海支所	0235-43-3411	三川支所	0235-66-2797
新余目支所	0234-43-4426	羽黒支所	0235-62-2140
立川支所	0234-56-2155	檜引支所	0235-57-2994
藤島支所	0235-64-5838	朝日支所	0235-53-2512



JA共済HP

各支所共済窓口では、JAの顔としてお客様を「笑顔(スマイル)」でお迎えし、対応・相談を行うスマイルサポーターがお応えします。

「Thank You」(ありがとう)の感謝の意味も込められています。当JAでは、43名のライフアドバイザー(レバ)がそれぞれの担当地区において、お客様の暮らしに安全をお届けし、よりよい未来のお手伝いをするため「3R訪問活動」を行っています。

また3Qには、

①「契約いただいた保障内容のご確認」

②「家族の皆さまの保障内容の皆さまの保障点検」

③「家族の皆さまの保障内容の皆さまの保障点検」

以上3点を目的に毎年1回「3Q訪問」を実施しています。

また3Qには、

①「契約いただいた保障内容のご確認」

②「家族の皆さまの保障内容の皆さまの保障点検」

③「家族の皆さまの保障内容の皆さまの保障点検」

相談会で信用事業の不安や悩みを解決

信用事業なんでも相談会

当JAは1月26日、全8支所で「信用事業なんでも相談会」を開いた。この日は、各支所合わせ約30人が来店。マイカー・教育資金、相続、年金受給などの相談に、金融アドバイザーを中心とした専門の担当者が対応。今後も相談会などを開き、JAバンクの優位性をPRしながらさらなる利用満足度向上に努めていく。



農業に触れ日常業務の糧に

職員農業研修

当JAは入組2年目と30歳を迎えた職員を対象に、農業や組合員との触れ合い、JA職員としての自覚の醸成や日常業務の糧にしておうと、農業研修を行っている。1月15日から18日まで、櫛引支所信用課の有賀この美さんが櫛引地区の農家の元で、干し柿の梱包やアサツキの根切り作業などを体験した。



様々なイベントで会員と利用者の拡大

産直「んめ農マルシェ」料理教室

当JAが運営する産直施設「んめ農マルシェ」は1月27日、産直会員と利用者の親睦を図ろうと、店内で料理教室を開いた。この日は、会員である伊藤ヒサエさんを講師に迎え、親子ら約15人が「イチゴ大福作り」を体験。講師とともに手作りの大きな大福を味わった。



笑顔溢れる交流を図る

三川支部 女性部まつり

当JA女性部三川支部は1月13日、三川町で女性部まつりを開いた。部員ら約30人が、(一社)家の光協会の小松創一さんが教える「防災ブレスレット」作成や「10歳若く見える体操」の体験、当JA生活福祉部石塚律子部長による「JAの自己改革について」と題した講演を傾聴する等、有意義な時間を過ごした。



JA NEWS

作柄を振り返り、来年度へ活かす

つや姫栽培研修会

山形県オリジナル水稻品種「つや姫」の今年度の作柄を振り返りながら、高品質・良食味生産に向けた栽培技術向上につなげようと、当JAは1月22～24日、本所で認定生産者を対象とした栽培技術研修会を開いた。当JAでは、今後も生産者に情報提供を行い、栽培技術指導を徹底していく。



女性参画で活発なJA事業へ

女性総代研修会

当JAは1月30日、本所で女性総代研修会を開いた。出席した管内各地区の女性総代35人とJA役職員らが意見を交わし、社会やJA事業への女性参画の重要性について認識を深めた。(一社)家の光協会の北海道東北普及文化局平間聡局長が「女性の活躍できる社会の実現とJA女性総代」と題した講演を行い、女性総代の役割について力説した。



地域とJAを結ぶネットワーク

各地の話題を追って

冬の味覚、来たる

雪中軟白ねぎ 出荷最盛期

庄内地方の冬の味覚「雪中軟白ねぎ」の出荷が最盛期を迎えている。現在、当JA集出荷場には柔らかく真っ直ぐなネギが毎日のように集荷されている。当JA長ねぎ部会は、前年より約2トンの増の出荷量61トンを目標に、「雪中軟白ねぎ」を主要販売先である関東圏の市場に向け出荷していく。出荷の最盛期は3月まで続く。



「先頭に立つ」農業に

飛翔会新春記念講演会・賀詞交歓会

当JAの協力企業体「飛翔会」は1月17日、鶴岡市で新春記念講演会と賀詞交歓会を開いた。約150社の飛翔会会員とJA役職員ら約200名が出席し、新年の挨拶を交わした。講演会で立教大学経済学研究科特任教授の金子勝さんが農政問題等について「農業はエネルギーや安全安心の品質で消費者ニーズに応えることで、先頭に立てる産業にもなれる」と述べた。



年末需要に合わせ高品質出荷を

ストック専門部出荷反省会

当JA花き部会ストック専門部は2月1日、当JA新余目支所で出荷反省会を開いた。今年度産ストックの作柄は、気温が高く推移した11月中旬に日量1000ケース越えの出荷ピークを迎えた。その後、12月の低温により出荷量を調整することができ、年末需要に合わせた数量となった。



高品質生産を持続し、産地ブランド化へ

かすみ草総括検討会

当JA花き部会かすみ草専門部は1月11日、庄内町で総括検討会を開いた。今年度産かすみ草の作況や出荷実績を振り返りながら、来年度の課題を検討。同専門部では今後、定植前の土壌消毒や天候に合わせた栽培管理を徹底し、市場との連携強化で有利販売を進めていく。



課題を克服し、収穫量確保を目指す

加工なす部会 出荷・作況反省会

当JA加工なす部会は1月16日、鶴岡市で出荷・作況反省会を開いた。平成30年産の作柄や販売状況を振り返り、来年度の個人収穫量増加を誓った。今年度は育苗期の生育は良好だったが、8月の台風の影響で全体的な収穫量は減少した。来年度は引き続き排水対策や防除を徹底し、取引先との契約販売数量確保を図る。



品質を保ちながら出荷量向上

みょうが部会販売検討会

当JAみょうが部会は1月17日、JA温海支所で販売検討会を開いた。今年度産みょうがの作柄は、8月の天候不良の影響が一部で見受けられたがその後は生育も回復し、前年比125%、4トンの増の出荷量につながった。今後も間引きを徹底しながら、出荷量と品質の向上に努めていく。



書道コンクール

県内1,255点の応募の内
JA庄内たがわ管内の
児童・生徒の力作が多数入賞

全共連山形県本部運営委員会会長賞作品

山形県知事賞作品

朝日中1年
渡部桃子

羽黒小4年 丸山華乃



三年 伊藤 こと乃



三年 石川 詩乃



五年 渡部 未蘭



二年 大川 心愛

《銀賞》
 鶴引東小1年 渡部 朱織
 広瀬小3年 伊藤 こと乃
 あつみ小4年 伊藤 凛
 鶴引東小5年 上野 紗希
 広瀬小5年 渡部 健志
 あつみ小6年 三浦 七海
 朝日中1年 渡部 あゆか
 羽黒中1年 池田 麗音
 温海中3年 五十嵐結花
 《銅賞》
 余目第二小2年 佐々木琢磨
 鶴引東小2年 菅原 斗愛
 広瀬小3年 齋藤 果歩
 鶴引西小3年 齋藤 果歩

あさひ小3年 五十嵐うた
 鶴引西小5年 佐藤 侑愛
 立川小6年 宇田 心優
 余目第二小6年 佐々木秀磨
 東栄小6年 成田 純彩
 朝日中1年 渡部 紋子
 朝日中1年 難波 健仁
 温海中1年 荒井 桜花
 鶴引中2年 宮崎 優
 羽黒中2年 渡部 莉穂
 羽黒中2年 豊原 拓真
 三川中3年 野澤 賢史
 鶴引中3年 安野 一花
 羽黒中3年 今井 亮哉

《銀賞》
 あさひ小1年 有賀せいこ
 余目第二小2年 佐々木琢磨
 余目第四小3年 榎山 心優
 余目第四小3年 佐々木優磨
 余目第四小4年 佐々木優磨
 余目第四小4年 佐藤 琉花
 余目第四小4年 渡部 華乃
 余目第四小5年 加藤 莉那
 余目第四小5年 伊藤 ゆき乃
 余目第四小6年 高山 海斗
 余目第四小6年 相馬 彩華
 立川中3年 佐藤 奈緒
 藤島中3年 佐藤 奈緒
 藤島中3年 藤島 智穂

第43回 ごはん・お米とわたし

作文・図画コンクール



JAグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、次世代を担う小・中学生に、主食であるお米の大切さと農業への関心を深めてもらおうと開催している「ごはん・お米とわたし」図画・作文コンクール。県内の小・中学校から作文316点、図画859点の作品が寄せられ、山形県知事賞6点、山形県農協中央会会長賞6点をはじめ、優秀賞30点の計42作品が選出されました。その中から、当JA管内の入賞作品をご紹介します。

「一つぶ一つぶに感謝して」

三川町立押切小学校6年 本間 智 妃

朝、起きてねむたい目をこすってぱっちり目を開けるといつもの食たくに、いつものご飯。私はあのお米作りを思い出し心に決めたことをそっと覚えて自分の席に座った。手を合わせて「いただきます」と言い、見慣れているご飯を口に入れた。

そして一年前の出来事をふと思い出した。五年生の時、最初経験がない私は心配だった。経験のない私がいきなりお米を作るなんて無理だと思った。でも班の友達が「大丈夫だよ。」と声をかけてくれたので出来る限り一生けんめいがんばろうと思った。育びようがよくできたので五月の下旬ごろに田をたがやした。ドロドロになつていってしまった。でも最初一生けんめいがんばると決めたことを思い出し、また土にくわを入れた。そしてついに田植えの時期になるとまたなすがんぐん育つていてびっくりした。四・五本持ち、やさしく土に入れた。でもどうしてもういてしまいいろいろと友達に聞いてみると、しっかりと土のおく底を目指してやるといいと聞いて実際にやってみると一つもうきながなくなつてうれしかった。

田植えが終わると夏休み前までのお世話はとても大変だった。なぜなら水面に緑のヘドロのようなものがうかんできてそれをバケツで一つ一つすくうのがつかれるし、時間のない朝のうちに取るのは、とても忙しかった。夏休みに入ってからヘドロを取ったり、雑草を取ったりするのが暑くもつた。でも何とかがんばろうと思った。時間がかかったとしても一人でがんばった後の達成感があり、心も空も雲一つない青空だった。

夏休みが終わると田んぼを見るといねが黄色にだんだん変わってパッタの場所が目で分かるようになった。辺りの田んぼはもういねかりを始める様子が窓から見えた。草をかるの音と機械の音で私はお米作りを始めた時の思いが自分の心に返ってきた。田植えではなくて次はいねかりの心配がやってきた。自分の食べるお米が美味しくていねがわかるのがこわかった。そして一つ一つの心配があった。それは一つ一つのいねを手作業で取るのかまを使ったことがないのだからいねをいかにというこだった。でもいねが教えてくれた。いねのからを取って、見たお米はとて白く輝いていた。初めて作って食べたお米は今までに食べたことのない味だった。かむと甘みがあり、ふわっともちもちしていた。私はお米作りを通して心の中に決めたことがある。それは、お米作りにはたくさんの人と努力が必要だから感謝の気持ちで食べるということだ。私は今朝も笑顔で一つ一つぶに感謝し、残さず口に入れた。

「祖父と祖母と梅干し」

鶴岡市立朝日中学校2年 佐藤 弥 桜

今年の冬は大雪だった。

学校から帰って来るときに母が雪下ろしをする姿がいつのまにか板についていた。当然草木も雪にすっぽりとおおわれて、例年に比べれば目覚めが悪かった。雪がとける勢いはすさまじく、あつと言う間に花が咲きうぐいすが鳴くいそがしい春の始まりだった。

昨年病氣にかかった祖父は自分より田仕事を心配していたが、なんとかその年は米を収穫することができた。家の新米で今年の正月を迎え、またあつと言う間に田仕事の準備が始まった。前より一層弱り、病院にいることが多くなった祖父は、三月の誕生日を病院で迎えた。いつも誕生会をする祖父とは対照的に狭い四人部屋の窓際。母は祖父に好物のマグロの寿司を食べさせてあげていた。祖父の姿は、見ているととても弱々しくて命がもう長くないことを感じてしまった。思う存分食べてゆっくり眠る祖父を見てから私は家へ帰った。

新学期になり、祖父が退院してまもない四月二十日、食事中に祖父は亡くなった。最後までがまん強く生きて、祖母のことを気遣い祖母の横で亡くなった祖父は、きつとうれしかったんだと思う。そのたった一瞬の出来事は、私の授業参観が終わった直後に起こった。

田仕事が終わると、今度は「梅干し」が始まる。私はこの仕事家が家の小さな行事の中で一番好きだ。ろう下っぱいに並べられた梅を祖母がせんべつして、身の大きな梅干しを外に干す。見ているだけでも心がウキウキした。今までは祖父が手伝っていたことも、今年は私たちが少しずつ手伝うようになった。

私は昔から「祖母と祖父が作る」梅干しが好きだった。旅館で食べる梅干しも好きだったが、二人の作る梅干しの方がダントツにおいしかった。容器に梅干しをいっばいつめて、その後、自分の部屋でおやつのように食べるほど好きだった。そんな私を見た祖母が「梅干し、うめが？」と聞いてきて私が「うん！とてもおいしい！」と言うと、祖母は「そうかそうか。」と言って笑う。祖父は静かにほえんだ。

祖母と祖父はおかずが少ない時などはいつも梅干しを白いご飯の上にのせて食べていた。一度私は祖父に聞いてみたことがあった。「いつも梅干しご飯ばかりたべてあきたりしないの？」と。そう言うと祖父は静かにご飯を食べながら笑顔でうなずいた。祖父は亡くなる前までほとんど毎日家では梅干しを食べていた。きつと自分の家で作った米と梅干しを食べて人生を終えた祖父は幸せだったと思う。盆のしようにい様に手を合わせ私は祖父に「長い間ご苦労様でした。おかえりなさい。」と心の中で言った。きつと祖父は梅干しご飯を食べて帰っていったらう。

「全校みんなでなかよく田植え」
三川町立横山小学校5年
村上 茉 生「豊作だあ！」
三川町立横山小学校6年
佐藤 結 望「今年は豊作」
鶴岡市立鶴引中学校1年
木 元 素 玖 凜「人と稲」
鶴岡市立鶴引中学校3年
松 田 桃 香

作品をお寄せくださった、小・中学生のみなさん、ありがとうございました。

作文部門 優秀賞

図画部門 優秀賞

JA庄内たがわ 産直 んめ農マルシェ 2月・3月のイベント予定

2/16日・17日

新春お米フェア

ポイント5倍

雪若丸・つや姫・はえぬき

5kg以上を特別価格にて販売!

2/23日・24日

んめ農マルシェ

謝恩セール

ポイント5倍

しいたけ・ハムを特別価格にて販売!

3/10日 **料理教室**

くるみ 寒天作り

講師：渡部順子さん
場所：産直店内
持ち物：三角巾、エプロン
募集人数：先着15名（締め切りは2月28日まで）
受講料：1,000円（受講料は当日徴収いたします）

※写真・イラストはイメージです。イベント内容が予告なく変更になる場合がございますので、予めご了承下さい。

**JAカードでお買い上げの方は
請求時に5%割引!**

農産物を出荷していただける産直協力会員を随時募集しています!

産直 んめ農マルシェ

〒997-0824 鶴岡市日枝字小真木原88-1

TEL0235-25-6778 FAX0235-26-7880
E-mail: sanchoku@ja-shonai.or.jp
営業時間 10月～4月：午前9時～午後5時



平成31年度 臨時スタッフ募集

募集職種 一般事務
(管理・信用・共済・営農・生活・資材ほか)

就業場所 本所(藤島)及び各支所(温海・新余目・立川・藤島・三川・羽黒・櫛引・朝日)
※面談時にご相談いたします。

雇用期間 平成31年4月1日から平成32年3月31日

勤務時間 午前8時45分から午後5時(休憩時間60分)
※時間外勤務あり
※職種によって始業・就業時間を変更する場合があります。

必要資格 普通自動車免許(AT限定可)

賃金等 時給(800円から経験等により他業務も考慮し加算します)
通勤手当支給(上限あり)

保険等 健康保険・厚生年金・雇用保険・労災保険

募集人数 10名程度

募集期間 平成31年2月末まで

面談等 随時実施します

お問い合わせ 企画管理部 人事教育課 山口・奥泉
TEL 0235-64-4922

100歳弁当
コンテスト
受賞作品を
公開中!

当JAふれあいハッピーの会藤島支部が作成した「猛暑に勝とう! 元気100%弁当」があなたに届けるJA健康寿命100歳弁当コンテストにおいて「五食を食べて達者が一番」部門でがんばったで賞を受賞しました。藤島支所の玄関には、賞状とお弁当の写真が飾られています。また、レシピはご自由にお持ち帰りいただけます。支所にお立ち寄りの際は、ぜひご覧になってください。

福祉介護支援センター デイサービス

えがお・デ・あいと

できることからやってみよう
明日は今日より多くの「笑顔」を!

1月の利用者様活動紹介
・書き初め
・もの作り
・おやつ作り等
活動詳細は当JAホームページへ!

機能訓練・回復の様子

今できないことができるように、できることが維持・向上できるように専門スタッフと一緒に挑戦してみませんか!

介護のお問い合わせは
福祉介護支援センター (居宅介護支援<ケアマネジャー>、訪問介護<ホームヘルプ>、通所介護<デイサービス>、福祉用具レンタル・販売)
〒999-7621 鶴岡市長沼字宮前23-1 TEL0235-33-8165

JA庄内たがわ女性部

フレッシュミズに入会しませんか

- ・おおむね45歳までの女性が対象となります。
- ・主に各支部での活動になります。
- ・すでに女性部に加入の方も会員になれます。

【主な活動】
料理教室、テーブルマナー、手芸(タイルクラフト)etc...

同世代の仲間づくりを目的として、気軽に楽しいことに参加してみませんか?

申し込み・お問い合わせは
JA庄内たがわ生活福祉部生活課 (0235-64-5834)
または各支所管理生活課まで

議案報告 理事会だより 平成30年12月25日(火)開催

第1号 11月末実績検討について
平成30年9月期 半期開示について

第2号 資産査定要領の一部変更について(案)

第3号 資産の償却・引当基準の一部変更について(案)

第4号 平成30年度上半期決算にかかる監事監査報告書について

第5号 子会社の平成30年度上半期決算にかかる監事監査報告書について(案)

第6号 共済規程の一部変更について(案)

第7号 以上7議案、慎重に審議され原案通り決定されました。

《報告事項》
・組合員の異動について
・資産査定事務要領の一部変更について
・担保評価マニュアルの一部変更について
・平成31年度職員採用内定者について
・資産形成サポートプログラムの導入について
・農林中央金庫職員の出向受け入れについて
・平成30年度貯金者データ整備の取組み状況について
・信用事業取扱手数料要領(別表)の一部改正について
・農政対米穀部会消費地求評活動報告について
・JA庄内たがわ「つや姫コンテスト2018」の結果について
・平成30年度産内柿概算精算について
・その他

議案報告 理事会だより 平成31年1月29日(火)開催

第1号 12月末実績検討について
平成31年度事業計画「文章編」について(案)

第2号 平成30年度上半期決算にかかる監事監査指摘事項に対する回答書について(案)

第3号 平成30年度JA全国監査機構監査期中改善指示書について

第4号 平成31年度水田農業対策にかかる対応方針について(案)

第5号 理事と組合員の利益相反取引の承認について(案)

第6号 固定資産取得について(案)

第7号 以上7議案、慎重に審議され原案通り決定されました。

《報告事項》
・組合員の異動について
・総代研修会の開催について
・平成30年度下期集落座談会開催要領について
・(株)あいとサービス第3四半期決算について
・羽黒・のうきよう食品加工(有)第3四半期決算について
・組織会計事務取扱要領の一部改定について
・平成30年度第3四半期自主検査の実施・改善状況の報告について
・平成30年度第3四半期不正・不祥事、苦情等の報告について
・平成30年度第3四半期事務ミスの報告について
・平成30年度第3四半期反社会的勢力等にかかる取引排除及び犯罪防止対応結果の報告について
・平成30年度連続職場離脱の進捗状況について
・その他

組合員異動について

経営移譲等で組合員資格に異動があった場合は、当JAの定款に基づき資格変更の手続きを行いますので、お近くのJA各支所管理生活課へお申し出下さい。

俳句 添削指導 阿部月山子先生

特選(添削) 鶴岡市本郷 小野寺一郎

特選 月山の雲の乱れや 寒波来る

特選 和やかに 平成最後 除夜の鐘

添 冬晴や 孔雀の蒼き 羽根光る

添 冬の日や 孔雀の蒼き 羽根を知り

〔評〕冬の晴れた日は湿度が低く、空気が澄んだ日は明るい。冬の日を冬晴れにすると真つ青な空が浮かぶ。そして、羽根を知り、羽根を知ると、孔雀の美しい姿が連想できる。

〔評〕和やかに平成最後が切れるので家族が楽しみながら大晦日を過ごしているのがわかる。その時に除夜の鐘が鳴ったのである。

〔評〕一年で一番寒く、天候が荒れやすい季節。長年の感で雲の乱れで寒波が来るのを知ったのである。

鶴岡市みどり町 五十嵐 徳美

心の声

あなたの冬の楽しみ方は？

三川支所管内

齋藤 あすかさん(22)

自動車販売店に勤め4年目の来店客から笑顔で「ありがとう」と言われる時が、働き甲斐を感じる瞬間です。夏はバイクで気持ちの良い風を感じながら走り、冬は友達とスノーボードを楽しんでいます。

母のような優しく笑顔が素敵な女性になりたいです。

撮影場所：グラント エル・サン(鶴岡市)

冬になると出番がくる、使い慣れたとつくりで日本酒を温めておちよこで味わう。夏にジョッキで飲むビールとまた違った、晩酌のひと時。

K・Uさん【新余旦】

家の中で駅伝や女子バレーの観戦を楽しみます。

T・Sさん【羽黒】

新聞から広報誌、本をゆっくり読む時間や映画鑑賞を楽しんでいます。心配な運動不足は雪除けで解消できたらいいな。

E・Hさん【新余旦】

お風呂上りに暖かい部屋で冷たいアイスクリームを食べる事です。パニラアイスにフルーツソースやメイプルシロップをかけて、贅沢な時間を過ごします。

K・Yさん【朝日】

祖母とお茶しながらこたつであまーい干し柿を食べることが至福のひと時です！

A・Nさん【三川】

味噌づくりの仲間との再開が楽しみです。我が家で採れた大豆の選別作業に動きます。

R・Hさん【立川】

懸賞の応募はがきを書くことです。家の中でじっとしているよりも、ちょっと大きな夢を見たいので。

M・Tさん【新潟県】

近所の原っぱで寝袋に足を入れ、双眼鏡で星空観察が楽しみです。温かい飲み物を持っていく時もあれば、日本酒をたしなむ時も。瀬戸内地方の温暖地域だからこそできることです。

T・Mさん【兵庫県】

3月号のテーマ

「春は出会いと別れの季節

あなたが「ありがとう」を伝えたい人は？」

今月のプレゼント



月山ワイルドソレイユルパン
ピアノコフレッサジデ2名様

【応募方法】 下記の①～③を郵便はがき・Eメールにご記入の上ご応募ください。

①テーマの答え(掲載致します) ②住所・氏名・年齢・電話番号

③広報誌の感想、JAへの意見・要望など

【あて先】 JA庄内たがわ広報情報係 〒999-7611 鶴岡市上藤島字備中下3-1

E-mail tagawa@ja-shonai.or.jp

【しめきり】 平成31年2月28日(木) 当日消印有効

※ご応募頂いた方の個人情報は、目的以外には使用いたしません。

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

JA庄内たがわ

ふれあい情報誌

aito

Feb 2019 No.287

発行/庄内たがわ農業協同組合

〒999-7611 山形県鶴岡市上藤島字備中下3-1

TEL 0235-64-3000 電子メール tagawa@ja-shonai.or.jp

印刷/庄内農村工業農業協同組合連合会

JA庄内たがわホームページ

もっけだねっと

Q 検索

